

現業評議会ニュース VOL.25

現場からの取り組みを通じて 第4回現業政策集会 職場の活性化を

現業評議会は、1月29日に「第4回現業政策集会」の開催に向け、第1回運営委員会を開催した。運営委員は三役・常任委員をはじめ、各部会から3人の運営委員を選出。運営委員会では開催日や会場をはじめ、分科会を各部会で行うことを確認した。分科会内容は、部会選出の運営委員を中心に議論が行われ、分科会の内容の概要について確認した。また、全体会では講師に、難病を克服しオリンピックでメダルを獲得した競泳選手の星奈津美さんを招き、あきらめずに挑戦し続けることの大切さをテーマに講演を行います。

対面を基本とした集会開催となりますので、多くの参加をお待ちしています。

第4回現業政策集会	分科会	タイトル
(1) 全体会 2023年7月22日(土) 13:00~17:30 開催場所 「名古屋市公会堂」	清掃	全国の清掃現場の仲間に学ぶ ～次世代の廃棄政を担っていくために～
(2) 分科会 2023年7月23日(日) 9:30~15:00 開催場所 「名古屋国際会議場」 「名古屋市公会堂」	学校給食	子どもたちの未来を創るおしごと、 それが学校給食!! ～調理員としての原点に戻り、 子どもたちに笑顔を届ける～
分科会概要は右の表の通り	学校 用務員	学校職場（学校用務員職場）から取り組むSDGs ～子どもたちの未来を創造する学校環境整備～
	県職現業	未来に繋ぐ我々の技術継承 ～全職種で採用を！～
	一般現業	知れば簡単！せいさく(政策)の“トリセツ” ～～政策今昔物語～～

国土交通省に現場の必要性を訴える

吉村現業局長は1月19日に組織内議員の鬼木まこと参議院議員（国土交通委員会所属）に対し、自治体における道路行政の実態と課題を訴え、改善を求めた。その後、鬼木議員とともに国土交通省に対しても同様の改善を訴えた。

吉村局長は、民間委託が推し進められたことにより、自治体の道路行政の人員が削減されていることにふれ、「インフラの老朽化が進み、早急な対策が求められる中、日常の点検・整備が重要である。道路行政の体制が縮小し、災害発生時の対応では遅れに繋がるとともに、通常の維持修繕業務においても支障をきたす恐れがある。

道路法42条を踏まえ、日常から適切に維持・修繕業務をはじめ、災害時では発災直後の道路啓開、その後の復旧にむけた対応など、道路管理者としての自治体責任を果たすための体制の維持・拡充が必要」と現場課題を訴えた。今後も引き続き、国会での答弁を引き出すため、取り組みを進めていく。



（鬼木事務所にて国土交通省に改善を求めた）

第2回清掃部会 全国の取り組みを共有 京都市の「移動式拠点回収」を視察

清掃部会は1月27日から28日にかけて京都市内で清掃部会を開催し、京都市の「移動式拠点回収事業」を視察した。

「移動式拠点回収事業」とは、「ごみは資源、可能な限りリサイクル」の考えのもと、職員が公園などの住民の身近な場所に行き、蛍光灯や乾電池などの資源物を回収する取り組み。学区ごとで開催され、地域と調整のうえで、開催場所や実施日などを決定している。現場を熟知している現業職員だからこそ、行うことができる地域公共サービスの提供。

当日の開催場所は寺院の駐車場で行われ、雪が降る悪天候であったが、多くの住民から様々な資源物が持ちこまれた。現業職員が住民一人ひとりに対し丁寧な説明を行い、持ち込まれた資源物の分別を行った。あわせて京都市で4月から導入されるプラ促進法についての新たな分別の周知や説明が丁寧に行われていた。



写真上・下（住民が持ってきた資源物を分別）



写真上（当日は陶器リユースも行われた）
写真下（プラ促進法について説明が行われた）



視察した幹事の感想

視察した幹事は担当職員に様々な疑問点を聞くなど、事業内容に対する理解を深めた。

視察後、幹事からは「分別が十分に理解していない住民でも、安心して分別できるし、現場で働く現業職員だからこそ、できる業務と感じた。自分の自治体でも実施していきたい」などの感想や、また別の幹事からは「今後、地域の高齢化が進む中でも住民が便利で安心して利用することができる。また、住民とふれ合うことによって、ごみ減量などの廃棄物施策の理解を得るきっかけにもなり、広く行政として必要な業務だと感じました。全国標準になってほしい」との意見が出された。

